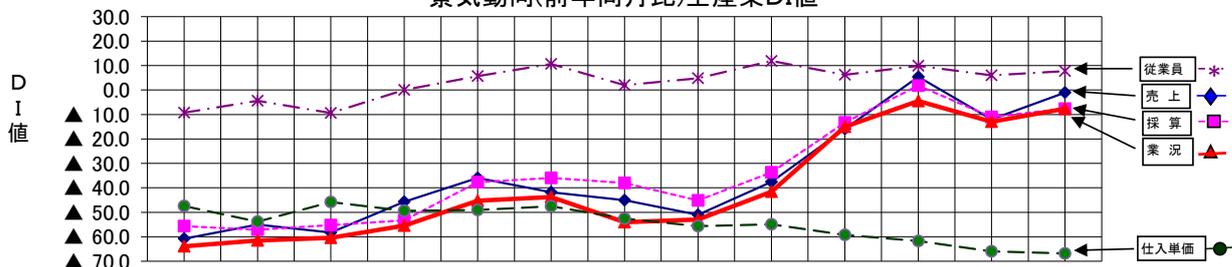


# 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 7月分

## 【7月の概要】 業況判断DIは改善傾向にあるも依然低水準 原材料等高騰の影響が大きく、コロナ禍前の水準には程遠い状況

業況判断DIは、売上、採算、業況において、前年同月比及び先行き見通し共に改善したものの依然としてマイナスの値が多く、低水準で推移している。  
寄せられたコメントでは、前月に引き続き原材料や燃料の高騰による影響を指摘する声が多く、65歳以上のワクチン接種が進んでいるものの、観光・飲食業にお客が戻っておらず、コロナ禍前の水準には程遠い現状が窺える。反面、一部ではあるものの、先送りした工事の再開や、緩やかな受注回復など明るい声も聞かれた。

景気動向(前年同月比)全産業DI値



### 【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2020年7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	2021年7月
売上	▲ 60.8	▲ 55.0	▲ 58.3	▲ 45.7	▲ 35.9	▲ 41.8	▲ 45.0	▲ 51.0	▲ 37.6	▲ 15.9	5.4	▲ 12.0	▲ 1.0
採算	▲ 55.7	▲ 57.1	▲ 55.2	▲ 53.3	▲ 37.7	▲ 35.9	▲ 38.0	▲ 45.2	▲ 33.7	▲ 13.3	1.8	▲ 11.0	▲ 7.7
業況	▲ 63.9	▲ 61.5	▲ 60.4	▲ 55.4	▲ 45.3	▲ 43.7	▲ 54.0	▲ 52.9	▲ 41.6	▲ 15.0	▲ 4.5	▲ 13.0	▲ 7.7
仕入単価	▲ 47.4	▲ 53.8	▲ 45.8	▲ 49.4	▲ 49.0	▲ 47.5	▲ 52.5	▲ 55.7	▲ 54.9	▲ 59.2	▲ 61.7	▲ 66.0	▲ 66.8
従業員	▲ 9.3	▲ 4.4	▲ 9.4	0.0	5.7	10.7	2.0	4.8	11.9	6.2	9.9	6.0	7.7

- ・プラス幅が増加したDI値：従業員1.7ポイント（人手不足局面へ）
- ・マイナス幅が減少したDI値：売上11.0ポイント、採算3.3ポイント、業況5.3ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：仕入単価▲0.8ポイント

### 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
5月	▲ 5.4	▲ 14.4	▲ 16.2	▲ 30.6	8.1
6月	▲ 8.0	▲ 12.0	▲ 11.0	▲ 33.0	8.0
7月	3.9	▲ 10.6	▲ 4.8	▲ 35.6	14.4

- ・見通しが改善したDI値：売上11.9ポイント、採算1.4ポイント、業況6.2ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：仕入単価▲2.6ポイント、従業員6.4ポイント（人手不足局面へ）

### 【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	ゼネコン	リニューアル工事は再開の兆しがあるが、大規模工事は引続き慎重。
	リフォーム	65歳以上のワクチン接種が進行し受注が増加したが、ウッドショックの影響で粗利益率低下が課題。
製造業	研削工具	ウッドショック、メタルショックによる原材料高騰が回復のブレーキになっている。
	板金・溶接	製造業全体としてはまだまだ低調だが、贅沢を言わなければ少しずつ受注は伸びている。
卸売業	建設資材	原材料高騰や輸送コスト上昇で値上げが続いている。3ヵ月での再値上げはこれまで考えられなかったこと。
	青果	ワクチン接種率は依然低く、飲食業界が厳しいことから、食材を納入する業者も厳しい。
小売業	自動車	半導体不足による新車の供給が減少している反面、中古車の需要が伸びている。
サービス業	広告代理	個人消費はなかなか回復せず、オリンピック開催も景気回復の起爆剤となるか不透明。
	飲食	「地域のお店応援商品券」や「GoToEat」に期待するが、支援事業がなくなった時の不安もある。
	タクシー	日中の動きは戻ってきてつつあるが、夜の需要が回復しない。